

ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線 第11回 三者協議 ニュース

このニュースは、ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線を今後も持続可能な路線とすることを目標に、「住民」「奈良交通」「生駒市」の三者で利用促進に向けた話し合いを行った内容をお知らせするものです。

ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線の令和7年度の利用促進の取組実施に向けて、取組内容に関する意見やアイデアを、参加者全員で話し合いました。

【開催概要】

日 時: 令和7年6月25日(水) 19:00~20:30

場 所: 生駒市図書館

参加者: 6名(ひかりが丘1名、あすか野4名、西白庭台1名)

【今回のプログラム】

1. 利用促進の取組状況の共有
2. グループワーク
3. 次回に向けて



当日の様子

令和7年度の取組内容についての意見やアイデアを話し合いました！

グループワークでは、「乗ってみる方法を考える」、「交通事業者との連携」、「今後の地域交通のあり方の検討」の取組テーマについて、今年度の取組内容に関するアイデアや意見を、参加者全員で話し合いました。

※グループワーク結果は、生駒市HPでご覧いただけます。

取組テーマ：「乗ってみる方法を考える」

① スマホを活用した利用者数の周知

- ・ スマホアプリ等で利用者数の増減が住民に分かるようにする(利用促進活動のやる気に繋がる)
- ➡ **奈良交通** ・ 路線別の収支・利用状況は、市へ年1回報告している
- ・ ICカードデータのみであれば、より短い間隔で報告可能

② 地域のイベントでの活用

- ・ 老人会のイベントでのバス利用の促進や、老人会でのバス利用の継続的PRを実施中 **住民主体で取組中**

③ バス案内等の効果的な配布方法

- ・ 自治会の回覧物が多いので、見てもらえるように配布方法の工夫が必要である(例、「いこまち」に挟み込む、冷蔵庫に貼れるサイズにする、カラー印刷するなど)
- ・ あすか野自治会で配布のバス・鉄道の乗継案内を、沿線自治会へ全戸配布したい **住民主体で取組中**

④ バス案内等の周知先・連携先

- ・ 地域活動が盛んな団体(例、老人会)の代表者に三者協議に参加してもらい、連携して周知する

⑤ バス運賃100円DAYのPR強化

- ・ バス運賃100円DAYがPR不足なので、市や奈良交通によるPR(特に事前告知)を強化する
- ➡ **生駒市** ・ 市のSNSでは広報している
- ➡ **奈良交通** ・ チラシの車内配架などを実施している、チラシ配布や声掛けは過去に実施経験あり
- ・ 連携イベントと併せてPRする(バスに乗る理由となる情報が必要)
- ➡ **生駒市** ・ 今年度はバス運賃無料DAYを実施予定で、イベントと連携予定である
- ・ バス車両を活用したり(ラッピングバス、マグネット、バスマスク)、車内モニターを活用したりする
- ➡ **奈良交通** ・ ラッピングは高額、マグネットは安全上困難、バスマスクは比較的安価
- ・ 車内モニター活用は費用面で難しいが、ポスター等は提供いただけたら対応可能

⑥ ふるさと納税等の活用

- ・ 広告費の確保に、ふるさと納税の公共交通枠やクラウドファンディングを活用する
- ➡ **生駒市** ・ 市の事業であればふるさと納税を活用可能

取組テーマ：「交通事業者との連携」「今後の地域交通のあり方の検討」

① 日常利用の促進

- ・ イベント時の単発利用よりも日常利用が重要である
- ・ 沿線の目的地(例、子どもの塾や病院)を発信する
- ・ バスの運行自体を知らない人が多い(例、けいはんな線の運休時にバスが移動手段として浮かばない)

② 高齢者の外出促進

- ・ 奈良市のななまるカード(高齢者は市内1乗車100円)のように、高齢者の外出促進をすると、医療費削減・まちの活性化などに繋がる
 - ➔ **生駒市** ・ 高齢者の移動支援として生駒市では「生きいきクーポン券」を交付している
- ・ 沿線の病院マップ作成や病院ツアーの企画をしてはどうか

③ QRコードの案内不足

- ・ 奈良交通の時刻表内に掲載のQRコードが何の案内か明示する

④ 便数への提案

- ・ 20分間隔であれば、ダイヤを気にせず、買物や通院等に気軽に利用できる(1時間間隔は長い)
- ・ 便数に対する不満はあるが、奈良交通も営利企業であるため、ジレンマがある
 - ➔ **奈良交通** ・ 乗務員不足が深刻な中で、利用状況に合わせた便数を設定している
 - ・ バス1台を増やすには、約1,000万円が必要である

⑤ 運賃施策のアイデア

- ・ 熊本県の「渋滞なくそう！半額パス」*のような運賃割引を、生駒市でも実験的に取り組めないか
 - *公共交通の利用促進・渋滞解消が目的の実証実験として販売された、県内の路線バス等を半額で乗車できるパス
- ・ 短区間利用を促進する割引施策(例、1バス停間 運賃100円)を実施できないか

⑥ 今後の地域交通のあり方

- ・ 今後の地域交通について、バスとタクシーを併せて議論する必要がある
- ・ 地域住民が公共交通に対する問題意識を持つことが必要である
- ・ タクシーを呼んでも、特に朝はすぐ来れない場合が多いので、病院など目的地へは直通バスが有難い

その他の意見（三者協議の進め方に関して）

- ・ 最終的な目標を定めた上で、目標に到達するために効果がある取組を考えていきたい
- ・ 住民だけが意見やアイデアを出すのではなく、行政や交通事業者からも取組の実現性等について意見がほしい
- ・ 試行錯誤しながら、協議や取組を進めていきたい

今回のプログラムの振り返り

1. 利用促進の取組状況の共有

生駒市と奈良交通による利用促進の取組状況を説明しました。また、参加者から、あすか野自治会で独自に配布しているバス・鉄道の乗継時刻表について共有がありました。

2. グループワーク

「乗ってみる方法を考える」、「交通事業者との連携」、「今後の地域交通のあり方の検討」の取組テーマについて、今年度の取組内容に関するアイデアや意見を参加者全員で話し合いました。

3. 次回に向けて

今回は、具体的な取組内容について参加者全員で話し合う予定であることを説明しました。また、地域で企画していることや取り組んだことがあれば、ぜひ市に知らせて欲しいことを説明しました。

次回のお知らせ 8月21日(木)19:00 生駒図書館 参加希望の方は↓の連絡先までご連絡ください。

連絡先:生駒市 総務部 防犯交通対策課
TEL 0743-74-1111 FAX 0743-74-1196

三者協議についての
市HPはこちら→

